

製造業

株式会社
センショー

大阪市西成区

[主な業務]
銅・スズ・ニッケルなどのメッキ業務



左から木下美優さん、堀内麻祐子社長、竹原沙紀さん



女性の
やりがいを
形にしたい

朝はスマイルウォーキングから

「おはようございます。」

午前9時。工場の生産ラインが動き始めると、営業部の池田麻貴さんの元気な声が響く。大阪市西成区のメッキ加工会社「センショー」。池田さんらコミュニケーション委員会のメンバー4人が毎朝、タスキ姿で職場を回りながら率先して挨拶をする。社内の士気を高めようと今年1月から始まったスマイルウォーキングだ。

「女性が増えたことで職場の雰囲気ガラリと変わりました。チャレンジ精神も芽生え、会社にもいい刺激を与えてくれます」。

堀内麻祐子社長はそう語る。社長就任時の平成23年当時、女性社員はわずか2人だったが、平成26年から毎年新卒者を採用し、現在は全社員48人のうち11人が女性だ。ほとんどが20代前半と若く、事務・営業職のほか、生産ラインを担当する社員もいる。

メッキ業界のイメージを変えたかった

女性社員を増やした理由を尋ねると、「男性の職場というメッキ業界のイメージを変えたかったから」。堀内



▲毎朝、スマイルウォーキングで挨拶をする池田麻貴さん（左端）

社長自身、建設会社に勤めていた20代の頃、周囲はみな男性で現場に出れば女性トイレもなかった。そんな体験が企業風土を変える動機にもなっているという。

新卒女性を採用するにあたり、まず取り組んだのが社内の施設整備だった。1階の共用トイレを男女別に分け、3階にも女性専用トイレと更衣室を新設。食堂もフロアを拡張した。この取り組みは女性社員の仕事へのモチベーションアップにもつながっている。

2年前には会社のホームページを立ち上げた。管理部に勤務する入社2年目の木下実優さんが制作を担当し、会社のロゴマークもおしゃれなデザインに一新。社内広報誌の編集や得意先向けメールマガジンの作成も受け持ち、「自分のやりたいことを形にすることができ、日々仕事のやりがいを感じています」と木下さん。

職場改善の4委員会を発足

また、平成27年には女性社員からの提案で社内コミュニケーション委員会のほか、スキルアップ、チェンジ（課

題提案）、5S（職場の環境改善）の各委員会を発足。全社員がいずれかに属し、社内の様々な改革に取り組んでいる。コミュニケーション委員会の池田さんは社内での唯一の女性営業部員でもある。「お客さまにいろんな提案をし、課題を持ち帰って技術担当者に伝えるのが私の使命」と話し、年4回、大阪や東京で開催される展示会では自社の広報も担当。堀内社長も「今後、女性だけの営業部隊を発足させたい」と意気込む。

女性が輝ける職場が会社のブランド



国見理加さん

生き生きと働く女性たちの姿は男性社員にも刺激を与えているようだ。堀内社長が打ち出したコスト削減の課題に対し、ある男性社員は軍手やゴム手袋などの消耗品を効率よく使うための回収箱を提案。さっそく具体化され、工場に設置されている。生産ラインを担当する入社8年目の国見理加さんは「自分が会社に入ったころに比べ、女性が働きやすい職場になってきたことを実感します」と話す。

「将来的には男女の社員比率を対等にしたい」と堀内社長。これまでの自身の経験から男性にしかできない仕事が輝ける職場にすれば、会社のブランド化につながります」と言い切った。